

会員だより

熊野古道伊勢路第四回 八鬼山（やぎやま）越え 山奥の聖地0番札所

古道ツアーも第四回目、まずは三重県の民謡の一つ尾鷲節の記念碑の説明から始まる。「ままになるならあの八鬼山を鎌でならしして通わせる」と峠をへだてた村長の娘と山向こうの若者の恋を歌った民謡で、七夕みただが結末を訊くのを忘れた。登り始めから遠くに見えるのは中部電力発電所と東邦石油のガソリンタンク。その近くの公園にバットを持った野球選手の銅像が霧に霞んで見える。本籍が尾鷲の別当薫氏だ

登り始めから石畳である。豪雨や台風が多い尾鷲の山道を造り、守るのに古来より人々が積み重ねてきた努力の賜物である。ひたすら滑らぬよう注意深く七曲がりの石畳を歩く。両脇には徳川吉宗が大事にしたという天台烏薬（てんだいいうやく）の葉が雨に濡れて美しい

今も健胃、整腸、痛止の漢方薬の中にある。行き倒れになった巡礼者の墓標や石仏が沢山あるので私達が無事この峠を越せるよう心の中で手を合わせる。スタート地点から道脇に町石（丁石）がたてられ、1丁（約109m）毎1/63が増えた数字になり、最終63/63になるというので、喘ぎながら数字を声にだし自分を励ます。遂に2人の女性が途中でリタイヤするので、添乗員と降り



ていった。もうこの先リタイヤする道がないと語り部に言われ、さらに足元に注意してひたすら歩く。不思議な事に気が付いた。石畳の道は硬い石で固められているのに、登り道の両脇に大小の岩が転がっている。海亀の背のように丸く、外の皮

が玉葱のようにはがれた形をしている。奇岩・巨岩も多い。その中でも蓮華石と烏帽子石は特に面白い。九木峠（くきとうげ）を越えると三宝荒神堂と茶屋跡がある。このお堂は西国三十三所第一札所の青岸渡寺の前札所0番札所だったというから、まさに大切な聖地だったのだろう。私達も雨の中、パンフレットの末尾にしっかりとスタンプを押した。

そして遂に627mの八鬼山峠に着いた。相変わらず雨と霧である。巨岩が横たわっている。下りはさらに滑りやすく、あちこちでズルッと滑る音が聞こえヒヤツとする。登りに比べ下りの方が短かったのは急な坂であったか63/63の町石を見てほっとする。降り口の数本の樹木の幹に白いペンキで「世界遺産反対」と書かれていて痛々しい。車中で着替えて雨と汗に濡れた衣類の重さと達成感とリタイア組も合わせて無事だった事への感謝を重ね合わせ帰路についた。

パソコン教室風景 レポート

七月十八日の真夏日、受講者八名を前に、講師が美しい写真の撮り方をパワーポイントを使って色々説明。赤ちゃんや動物を撮る時は被写体の目線まで下げて、シャッターを押すと、愛情のある写真が撮れる等のすぐりに役立つアドバイスもありました。



その後各自のカメラで用意された素材を実際に撮影してみました。この時は皆さん嬉々として撮影されていましたが、デジタルのデータをパソコンに取り込みオートシェ

イプを使って、写真を色々な形に変えたり、トリミングしたり、写真の縦横の比率を変えないで写真加工する手法の学習には頭を悩ませていました。暑い中さらに皆さんの熱気でヒートアップした教室でした。

E・H

祇園祭 山鉾巡行

京都育ちの私は「コンコンチキチン・・・」のお囃子を聞くと心騒ぎ、祇園祭は見ごす事のできない夏の風物詩です。今年山鉾巡行の招待席券を頂いて、暑い中を鉾と山の行列を、ゆっくりと見物しました。本物の御稚児さんが乗る先頭の長刀鉾、そしてからくりで動くカマキリが手を振ったり、羽を広げる蟪蛄山（とうろうやま）や最後を飾る船の形をした船鉾は特に人気で、拍手喝采でした。 K・T



編集部だより

「楽しく親しめる会報を作れたら」こんな思いで会報の編集をしています。健康でいるありがたさ、食欲のあるありがたさ、自然の移ろいに感激できる感性、そんな、なにげない日常のひとこまを気楽に書いて欲しいですね。小さな記事が色々あるのが楽しいと思うので、皆様からの投稿をお待ちしています。



これ、何だと思いませんか？

可愛い子供のワンピースの様ですが、実はアクリル毛糸で編んだタワシです。小さな手のひらサイズでこれで洗うとピッカピカ!!



簡単に編めてEさんは18枚も作りました。皆さんも、作ってみませんか？ Sさん制作の作り方レシピあります。